

第9回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和5年2月24日（金）

18時～19時30分

会場：長野県伊那合同庁舎 講堂

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 会議事項

（1）第8回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 【資料1～3】

（2）学校像のイメージについて 【資料4】

（3）意見交換

4 その他

次回（第10回）の予定

【日時】 令和5年4月中旬～下旬 18：00～19：30

【会場】 長野県伊那合同庁舎 講堂

【内容】 新校の学びのイメージについての意見交換

5 閉 会

第8回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時・会場	令和5年(2023年)1月24日 18時00分～19時30分 長野県伊那合同庁舎
出欠席 (敬称略)	懇話会構成員:29名(3名欠席:山田 勝巳、堀井 一政、篠平 良平) 事務局:県教委2名(山岸主幹指導主事、田中主任指導主事) 辰野高校3名、箕輪進修高校2名、上伊那農業高校4名、駒ヶ根工業高校4名
傍聴者	傍聴者8名、報道5社(オンラインを含む)
会議事項	(1) 第7回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 第2回校地検討会議の報告 (3) 学校像のイメージ(たたき台)について (4) 意見交換
当日資料	第8回懇話会(資料)、意見交換シート

内容概要(事務局からの説明/意見交換(構成員から出された主な意見))

- (1) 第7回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(→事務局)
→育てる生徒像、目指す学校像、設置学科及び地域との連携のあり方や学びの環境づくりについて、意見交換で出された意見を集約し報告。
- (2) 第2回校地検討会議(12/20)、現校地見学(上伊那農業、駒ヶ根工業:1/24)について報告(→部会長)
→校地候補地となっている2校の立地条件、敷地、建物情報等の資料をもとに検討を行うと共に、それぞれの校地を見学し、実際の校地の広さや現有施設・利用状況等の確認。
- (3) 学校像のイメージ(たたき台)について(→事務局)
→アンケート結果や懇話会での意見をまとめ整理し、育てる生徒像及び目指す学校像、学びの具体(設置学科等)を立案。
- (4) 意見交換(たたき台をもとに、構成員によるグループ討議を行い、話し合われた内容について発表)
 - 上伊那が前面に出ていることが気になる。グローバルであることも大切。外でも地元でも活躍できる人材を育成。
 - 広い視野を持ち、世界を意識した生徒の育成のために、国際的な学びに対応したカリキュラムを。
 - コミュニケーション力や表現力を付ける学校でありたい。社会に柔軟に対応できる生徒を育てたい。
 - 「上伊那が元気なる」は具体的にはどういうことか。
 - 中学生が来なくなる高校を作りたい。くくり募集、学科連携、ミックスホームルームは良いと思う。部活動の魅力も大切。
 - 専門性をもって地域に密着は良い。新校で学んで自信をもって社会に出て欲しい。
 - 専門性を磨けることも大事だが、基本的な人間性も磨ける学校であってほしい。
 - 農工商の融合は大変、専門性を高めることが大切である。
 - 企業の求めるスキルは企業に入ってからつければよい。
 - くくり募集は魅力的だが、専門性と反する部分もある。カリキュラムの構築が大事になると思う。
 - 既存概念にとらわれず、建築や土木を入れる。
 - 中学生が選んでくれる学校になるために、中学生やその保護者に内容をしっかり伝えることが大切。
 - 懇話会の意見がどの程度反映されるのか気になる。

今後の検討事項

- ◎今回いただいた意見を基に、新校の生徒像、学校像をまとめていく。また、新校の学びを支えるために考えられる取り組みについても検討していく。

その他

- 【次回】** 日時:令和5年(2023年)2月24日(金) 18時～19時30分
場所:長野県伊那合同庁舎 講堂
内容:新校の学びのイメージについての意見交換

第8回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会 (R5. 1. 24) グループ討議記録

(意見交換シート記述も含む)

○育てる生徒像についての意見

*目指す学校像についての意見

・新校での学び(設置学科)についての意見

◇学びを支えるために考えられる取り組みへの意見

グループで出た意見

A	<p>○上伊那のみに着目する生徒像は、地域に縛りすぎではないか(地域で活躍する人材を育てる学校であってほしい面もある)</p> <p>○地域性を活かした人間となれる生徒</p> <p>○小・中・高校へとつながる学びができる生徒(問題意識を持ち、課題解決への意識・意欲につながる学びに向き合える生徒)</p> <p>*専門性を磨くことは、当然だが、基本的な人間性も磨ける学校であってほしい</p> <p>・『科(学科)』でクラス分けすると男女のバランスが悪くなるので、クラスは混ぜた方がいいか</p> <p>・新学科は本当に立ち上げることができるのか。農工商の融合した学び・横断した学びについては学科として新しく作る必要があるのか疑問である</p> <p>◇キャリアパスポートの継続性とその利用(小学校⇒中学校⇒高校へ)</p> <p>◇3年で卒業にこだわる必要はないのではないか。デュアルシステム(長期インターンシップ)も含めて、4年で卒業するなど、柔軟なカリキュラム編成・構成でできるようにしてはどうか</p> <p>◇上伊那の企業が「新校の卒業生であれば、ここまで勉強している。」と分かってもらえる(評価してくれる)ような、(言い換えれば)企業が求める基本的な知識(企業に関わる専門知識)が修得・習得できる学びができるような取り組みの充実をぜひ求めたい(上伊那に合った、上伊那で活躍できる、上伊那で就職しやすい人材を育ててほしい。そのための取り組みを求めたい)</p> <p>◇デュアルシステムなど、他校で行われている新たな学びの取り組みについて研究を進め、上伊那新校での取り組みに活かすべきではないか</p> <p>◇専門性、または専門分野を幅広く学ぶために、専門分野を学年ごとに「渡ること」は可能であるのか。専門性の連携的学習展開は可能なのか、興味がある。上伊那新校での取り組みに活かすべきではないか</p>
B	<p>○経験に勝る学びはないと思うので考えるよりも行動できる生徒</p> <p>○「とりあえずやってみる」がすべての技術の基礎になる</p> <p>○学びに対して前向きになれる生徒の育成</p> <p>○たくさんの人と関われる協調性がある生徒</p> <p>*卒業後の進路が想像できる学校。進学も就職もできる学校</p> <p>*専門性を高められる学校。地域社会に求められる学校</p> <p>*各学科がミックスできる機会の確保を名実ともに設定することが重要</p> <p>*学科の枠にとらわれない連携の取れた学校</p> <p>*将来につながる人のつながりを作ることができる学校。上伊那に結びついて学校</p> <p>・学科連携による学びの汎用性が広がるカリキュラムをどの科でも取り入れる</p> <p>・中学生にとって魅力ある学校にするためにはどの学科においてもIT系の色を濃く出すべき。情報化社会への対応やSDGsも意識</p> <p>・コースは選択したい。</p> <p>◇ミックスホームルームは、たくさんの人と関われ、生徒からは魅力があると感じる</p> <p>◇総合技術の学校として制度的に必要なものは何か、まとめてほしい</p> <p>◇工業の専門を学んでいて農業に変わったとき農業科の〇〇科卒となるのか</p> <p>◇小中学校との連携、クラブ活動も含めて校外に出での活動</p> <p>◇課題探究(学科連携)</p> <p>◇くくり募集</p> <p>◇談話スペースとか話し合える場が欲しい</p>
C	<p>○懇話会のメンバーで考えた地域の思いや願いがどの程度まで反映されるのかわからない面もある</p> <p>○様々な方の意見を聞き、取り入れることで、最終的に特徴のない平凡なものが出来上がるケースが多くある</p> <p>○専門高校を卒業した生徒=即戦力の時代ではなくなってきている。時代の変化が激しい中、専門性以上に社会性も身に付けることが重要である</p> <p>*上伊那総合技術新校の地域における立ち位置や方向性・重要性を示し、地域に理解され支えてもらえる学校</p> <p>*専門高校ならではの地域連携を柱とした体験的・実践的な学び</p> <p>*中学生が魅力を感じる高校(活気・カリキュラム・部活動など)</p> <p>*そこでしか学べないものがある特徴のある学校</p> <p>*大学にもアドミッション・ポリシーがあり、学校の特色や教育理念から入学者の受け入れ方針やどのような生徒を求めているかの方向性をまとめ、そのうえで学びを通して身に付けることのできる能力(ディプロマ・ポリシー)を示している。まずは、その部分の検討を行い、発信していく事も重要である</p> <p>・新学科の教育内容は充実し過ぎていて、迎える側(先生)が忙しくなりすぎ対応できるかが心配</p>

上伊那総合技術新校 再編実施計画に係る学校像の意見のまとめについて

	協議会からの意見・提案	再編・整備計画 【二次】	懇話会での意見 (第7回懇話会までに出された意見)
目指す学校像	○各産業界と共に地域一丸となって専門分野の枠を越えた汎用的・多面的な職業能力を育成することができるような、規模の大きさを生かした持続性と発展性のある学校	○農業・工業・商業の3学科のそれぞれの専門性の向上と、学科間連携の充実により、新たな時代に新たな価値を共創する力を育む産業教育の拠点校	○自分の好きを探究することができる学校 ○最先端の専門分野が学べる学校 ○生活にも活かせる学び ○自己肯定感を高める取り組み。素敵な刺激が必要 ○専門性を磨く学校 ○各校の伝統ある専門性を磨き、加えて統合による化学反応が起こる学校 ○農・工・商の連携できる新しい学校 ○障がいを持つ方も含めた、多様な人が来なくなる、来やすい学校 ○基礎を学べ、自分で選択できる学校 ○作って売れるまでできる学校。商品が売れる仕組みが分かる学校 ○小・中学校での探究を引き続き取り組める学校 ○単なる知識の習得だけでなく、人間性(協調性、積極性)を高めることができる体験型の学びを実践する学校 ○ジェンダーレスの学校 ○地域に根付く学校 ○互いの学科の枠を越えた学び
育てる生徒像	○高校での学びを基盤として、地域の産業を支える人材の育成 ○専門分野の枠を越えた汎用的・多面的な職業能力の育成	○学科の枠を越えた学びにより、「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等の調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献する資質・能力の育成 ○汎用的・多面的な即業能力を備えた産業界の担い手の育成 ○上伊那テクノバレー新時代の中核となる、知識と行動力を身に付けたイノベーション人材の育成	○国内だけでなく海外に向けて発信できる、リーダーの育成 ○地域を成り立たせる人材の育成 ○自分の将来に向かって、希望に進んでいける生徒の育成 ○小・中学校での探究を引き続き取り組める生徒の育成 ○専門性と人間力・社会性を持ち合わせ、社会貢献できる生徒の育成 ○自分の可能性を信じ、学びを深めることで自己肯定感を持つ生徒の育成 ○社会人基礎力や忍耐力、対応力、耐性力を身に付けた生徒の育成 ○主体的に行動でき、コミュニケーション力や表現力を持つ生徒の育成 ○基礎的な技術を持ち、専門性を磨き、幅広い視野を持つ豊かな発想力を持つ生徒の育成 ○個性的で起業できる生徒の育成 ○データ活用ができる生徒の育成 ○専門分野の枠を越えた職業能力を持った生徒の育成 ○周囲の人々と協力しながら社会を創っていこうとする生徒の育成 ○生活態度に自信を持って活動できる生徒

	協議会からの意見・提案	再編・整備計画 【二次】	懇話会での意見 (第7回懇話会までに出された意見)
設置学科	○農業、工業、商業がバランスよく発達した上伊那地域では、地域の重要産業各分野の担い手確保のため、将来にわたり専門教育を維持するとともに、例えば、農業の6次産業化への対応等、時代にふさわしい教育環境の整備が必要	○上伊那地区の専門学科を集約し、地域の中でバランスよく発達してきた農業・工業・商業の3学科のそれぞれの専門性の向上	○各々の学科がつながり、連携をとる横断的な学びが必要 ○各々の学科の特徴をはっきりさせ、その上で連携を考える。 ○情報関連の科目がトレンド ○企業とのつながりをもつ実践的な科目ができるとうい ○建設に関わる学科、情報系に関わる学科、アパレルデザイン、ゲーム・音楽などのデザイン、語学力をつけるような学科が必要ではないか。これらを最初に体験できる教育システムの構築 ○起業家学科、アントレプレナー学科の導入 ○情報系学科 ○体験的学習の充実した学科 ○電気系を電子系と電力系の2つに分ける ○基本的な実践+応用力。日本中からも注目される「上伊那独自」の総合技術高校 ○機械、電気、情報、蓄電池や半導体関連を学ぶことができる学科 ○総合技術学科（仮称）のような一まとめの学科 ○土木系の学科 ○情報を基礎学科とすべき。（すべての基礎に情報がある）
地域との連携の在り方	○企業等地域の産業界と連携した学びにより、意欲のある生徒がさらに専門性を高めていける仕組みの構築	○地元自治体や産業界等の地域のプラットフォームと連動したデュアルシステムや協働的な学び、分野最先端の学びなどを構築	○伊那の企業は世界基準、ライバルは世界で、トップレベル。これらの企業とコラボし、職業体験のチャンスを広げてほしい。 ○一度外に出ても帰ってこられる環境・地域の魅力づくり ○今の延長線上で、さらに地域の方々にかかわりを持ってほしい ○Uターン、残る人を育てる観点 ○スマート農業や自動化に向けた社会のために地域の方と取り組みたい。 ○地域社会が生徒を縛り付け過ぎない環境を用意してほしい。 ○異分野との交流 ○地域の企業、商店、農家で実習学習する中で協働して課題解決 ○地域企業、自治体等と連携した地域課題の解決 ○信州大学、南信工科短期大学校などの学術機関との連携 ○地域とつながるキャリア支援コーディネータの設置が不可欠 ○深い学びのために、地域の企業が入り込む仕組み ○新校が設置されている自治体以外の上伊那地域全体での交流に期待

	協議会からの意見・提案	再編・整備計画 【二次】	懇話会での意見 (第7回懇話会までに出された意見)
学びの環境づくり	<p>○課題研究は、その成果も含めて高く表できる。今後、さらに、面的な広がりや質を高めることが必要</p> <p>○「新たな学び」の推進のために、教員がそれぞれの専門的な知識や技能を活用し、チームとして連携、協働し、組織的に対応していくことが必要</p>	<p>○農業・工業・商業の3学科のそれぞれの専門性の向上と、学科間連携の充実</p> <p>○学科の枠を越えた学び</p> <p>○デュアルシステムの導入</p>	<p>○海外との交流をもっと盛んにしてほしい</p> <p>○言葉の壁(英語等)を越えて、自由に外国とコミュニケーションが取れる環境</p> <p>○人気の科は希望者が多いが、人数調整するのではなくできるだけ望んだ学びを保障してほしい。</p> <p>○制服に対する意識が中高生を中心に大人が思っている以上に高い。</p> <p>○体験的学習を1、2年生までに多く盛り込めるカリキュラムがよい。</p> <p>○個々の特性や興味・関心などによって、様々な授業を選択できるようにする。</p> <p>○入学後でも、学科を決められる。</p> <p>○科を越えたくくり募集で、入ってから科を選べる仕組み。</p> <p>○課題研究の3科連携</p> <p>○専門科25単位(最低)の上で、連携を図る。農・工でもものづくり、商で売る。</p> <p>○1年次は普通科の授業を充実させながら、キャリア教育的時間(農業・工業、商業を体験的に学べる)を組み込みながら、1年の後半から、生徒の興味・関心がある教材を扱う。</p> <p>○コース学習の中で探究的な学びができる教育システムの検討</p> <p>○農工商の科目に触れることは経験を増やすという意味では有意義だと思うが、反面、中途半端になるのではないかという危惧がある。</p>

育てる生徒像

- 専門性と人間力・社会性を持ち、「上伊那をデザイン」できる生徒
- 主体的に行動でき、周囲の人々との協働を通して、学び続ける生徒
- 幅広い視野や、多様な価値観を持つ、未来志向の生徒
- 上伊那から学び、上伊那を元気にすることができる生徒

変更

育てる生徒像

- 専門性と人間力・社会性を持ち、「**みらい**をデザイン」できる生徒
- 主体的に行動でき、周囲の人々との協働を通して、学び続ける生徒
- 幅広い視野や、多様な価値観を持つ、未来志向の生徒**
- 上伊那で学び、**地域・社会**を元気にすることができる生徒

※網掛け部分は、第8回懇話会（1/24）資料からの変更点

目指す学校像

- 自分自身の将来と地域・社会の未来をクリエイトできる学校
- 地域の力を活かし、先端技術に触れ、個別最適な学び・協働的な学びを通して成長できる学校
- 専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農・工・商の連携による社会のイノベーションに貢献できる人を育てる学校
- 多様な生徒が生き生きと生活でき、個人や社会のwell-beingを実現できる学校

変更

目指す学校像

- 自分自身の将来と地域・社会の**みらい**をクリエイトできる学校
- 上伊那の資源**を活かし、先端技術に触れ、個別最適な学び・協働的な学びを通して成長できる学校
- 専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農・工・商の連携による社会のイノベーションや**新しい価値の創生、地域課題の解決**に貢献できる人を育てる学校
- 多様な生徒が生き生きと生活でき、個人や社会のwell-beingを実現できる学校

※網掛け部分は、第8回懇話会（1/24）資料からの変更点

新校での学び（設置学科等）

専門性の深化と学科連携による汎用性の拡充 地域課題を探究し地域に貢献する学び

◇農業科

- ・野菜、果樹、草花、水稻などの生産物、動物、食品、里山環境を教材とした、栽培、飼育、食、環境、地域活性化についての学び。
- ・実習や実験、地域での実践的な活動や交流活動を取り入れた探究学習。

◇工業科

- ・工業系の基礎的な知識と技術を習得し、「ものづくり」を中心とした実践的な学びを大切にしていく。機械系の加工・溶接・鋳造、電気系の電気エネルギー・電子回路・マイコン制御、情報技術系のプログラミング・ネットワーク技術・AI活用等

◇商業科

- ・ビジネスの知識と技能に基づき、学校内外での実践的な学習や探究学習を通じて、ビジネスの推進能力と新しい価値を生み出す創造力を身に付ける。
- ・ビジネスの視点と創造力で、地域の発展や課題解決に取り組む学び。

◇新学科（3つの学科を結節するDXを活用し、農工商を融合した学び）

- ・農・工・商について探究的・横断的に学び、新しい価値の創生と地域課題の解決に繋がる研究。起業に係る実践的な取り組み。
- ・ビッグデータの分析・活用、IoTや仮想空間（メタバース等）を利活用する学び

学びを支えるために考えられる取り組み等

- 他校の学修の単位互換を含む、新たな単位認定（上伊那5校との連携等）
- 単位制 くくり募集 コース制 デュアルシステム 長期インターンシップ
- 模擬会社の運営 ミックスホームルーム
- 国際交流（JICA、オンラインで海外の高校との交流等）
- 幼保小中（異年齢）や養護学校（分教室等）との交流学習（探究学習の支援等）
- 上伊那8市町村・上伊那広域連合との連携
- 信州大学・南信工科短期大学等との連携
- 地域連携コーディネータの設置
- 地元企業と連携した最先端技術（スマート農業等）、最先端機械を用いた実習・探究

※網掛け部分は、第8回懇話会（1/24）から追加したアイデア